

令和7年度 東京都立墨東特別支援学校 経営報告

＜学校概要＞ 本校は肢体不自由教育部門（本校小・中・高等部及び分教室）と病弱教育部門（本校からの病院訪問学級及び分教室）の2部門を3拠点（本校・2分教室拠点）5指導形態（通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、かもめ分教室による療育センター内教育、本校からの病院訪問教育、いるか分教室による病院内教育）で構成される肢・病併置校に組織改編されて9年目を終える。校舎及び教育環境施設は38年超の状態である。卒業後のライフステージを見据えつつ、児童・生徒の障害特性や疾病等の実態に応じた日々の専門性のある教育実践と切れ目のない教育を構築することで、心豊かに自分らしく生きる力を培い、地域社会の自立した一員として社会参加し、共生社会を創出する障害者の代表となる児童・生徒の育成を目指す。

＜中期計画と現在位置＞ 母体となった養護学校開校から40周年を迎えるに当たり、直近の3年間となる令和5～7年度を「学校教育基盤充実期」と捉え中期目標を設定した。

目標① 次世代教職員への継承

策：急速に進む世代交代を見据え、若手教員等が今後の指導と学校運営を担えるように指導計画の蓄積やシステム整備を進め、効率的に継承できるようにする。

目標② 専門性の内部留保

策：専門性の蓄積と共用財産化できるシステムを構築する。そのためには専門性向上のために招聘する外部専門員についても学校ニーズに即した人材を聘する。

目標③ 教育内容の絶え間ない更新

策：社会に開かれた教育課程の下、社会の変化を教育に反映させて内容刷新を図る。そのためには外部講師の先進性や企業のテクノロジーとその活力を積極導入する。「学校から社会へ」&「社会を学校に」

目標④ 新学習指導要領に基づく教育課程の開発

策：急速な世代交代が進む中、個人の経験と勘に頼らず指導できるように、学習指導要領及び文科省著作教科書に基づき、単元計画等の指導計画を開発・共有できる仕組みを構築する。

目標⑤ 人権尊重を基盤とした相談支援体制の充実

策：特別なニーズをもつ児童・生徒の人権を最大限に尊重し、真摯に対応・支援できるように全教職員の資質向上を図る。また、培った相談・支援の専門性を地域支援に最大限活用できるように体制を充実させる。

目標⑥ 働きやすく効率的なビジネスシステムと環境の構築

策：業務の見直し及び最新ビジネスツール投入等により効率化を目指したシステム改善を推進する。

1 今年度の取組目標等に関する自己評価 **BOKUTOU School Plan R7**

※目標に対する実施内容と自己評価（最重点目標に関する数値目標と実績値）

最重点目標 1 墨東生が一体感と誇りをもてる教育活動等の展開 **自己評価** ◎

数値目標 保護者を含む全関係者評価「充実した学校生活を送ることができている」≥ 80%

→ **肯定的評価 96%**

方 策 墨東生としての誇り実感プロジェクト

＜主管：主幹会、教務部、生活指導部、情報部、サポートデスク＞

- ① 学校一体感醸成による健全育成（芸術活動、読書活動、スポーツ活動等への取組み）
- ② 学校の良さ発信（HP更新とX発信の一層強化・リーフレット等のデザイン刷新による広報強化）

③ 学校環境の整美／墨東きれいプロジェクトⅢ（教育環境・職場環境改善＝教え方改革・働き方改革の推進）

⇒ 全校を上げての読書活動では、読書推進月間、配架図書の定期的な入れ替え等により、過去最高となる年間 8,700 冊以上の貸出冊数を記録した。特によく読んだ児童・生徒を表彰し、読書への意欲を高めたほか、スポーツ、芸術、その他模範となる行動を積極的に顕彰し、互いを認め称賛し合う雰囲気醸成した。「墨東応援うちわ大作戦」による自他の応援活動、「応援のチカラ」プロジェクトへの肢・病合同参画により、全校一体となって取り組む体験を充実させた。これらの取組の様子を学校だよりで紹介するとともに、Xで日常的に発信した結果、フォロワー数が年度当初 292 件から 392 件へと増加した。上記のような温かみある学校の雰囲気が伝わる学校案内リーフレットを作成し、活用を開始した。

墨東きれいプロジェクトⅢの実施により、引き続き校内教育環境整備に取り組むとともに、働き方改革推進に向け、教職員の共有フォルダデータの整理も実施した。また、来たる開校 40 周年に向け、来客用スリッパ、折りたたみ椅子の新規更新により儀式環境を整えた。

最重点目標 2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上 自己評価 ◎

数値目標 委員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進している」≥ 80%

→ 肯定的評価 100%

方 策 運営効率化プロジェクト：3年次 <主管：主幹会、教務部>

- ① 知的障害の各教科の目標及び教科書に準拠した指導計画作成と実践例の共有化による効率化の推進
- ② 業務改善提案の積極採用による効率的な方法の導入（例：多機能印刷機）や業務の見直し
- ③ 主幹・主任教諭等の職責や看護師等の専門性を踏まえた業務目標の明確化（業務ミッション一覧）
- ④ 全教職員の業務量平準化と効率化を目指すための分掌業務の再編に基づく担当業務の再配分

⇒ 校内研究において、知的障害の各教科の指導に関する個別指導プログラム計画作成の方向性を検討、来年度からの施行に向けて準備を整えた。特に学習指導要領の 1、2 段階の児童・生徒の指導目標の立て方について、共有できる一覧を作成し、指導目標設定の効率化を図った。

業務においては、多機能印刷機の活用による業務効率向上に加え、主幹教諭を中心とする学校一体感プロジェクト「墨東ダイヤモンド」による業務目標の重点化と共有化を図り、目的意識をもった業務推進ができるようにした。主任教諭の業務については、特に重点的に担うべきものを「業務ミッション」として焦点化し、年間を通じて意識できるようにした。教職員の業務の平準化を目指し、分掌内の業務分担の見直しに取り組んだが、一部教員への負担の偏りの解消には至らなかった。

最重点目標 3 専門性ある人材を活用した教育の充実 自己評価 ◎

数値目標 委員評価「外部専門員の助言を教育活動の充実につなげている」≥ 80%

→ 肯定的評価 100%

方 策 専門人材活用プロジェクト <主管：主幹会、研究育成部>

- ① 学習指導アドバイザーを人材活用した個別学習への継続的支援による指導改善（知 1・2 段階の指導重視）
- ② 発達支援アドバイザーを人材活用した授業改善及び墨東生への行動支援の推進
- ③ 「なんでも相談」リストの充実による校内専門人材を結ぶ人的サポートネットワークの活性化
- ④ 学校介護職員・病弱教育支援員等の職の専門性スキルアップ研修による協働の質的向上

⇒ 学習指導アドバイザーによる個別学習への継続的支援については、本校勤務教員の 88% が活用し、指導向上に努めた。また、前後期各 4 名の教員を対象に発達支援アドバイザーを活用した授業改善の取組を実施し、発達行動の改善をはじめとする指導・支援の充実を図った。外部専門員（PT）による実技指導体験型の指

導講座を年 12 回開催し、肢体不自由教育経験の比較的浅い教職員の実践力向上に努めた。10 月からはデジタルサポーターによる ICT 相談会を計 8 回実施し、教職員のデジタル活用能力向上に役立てた。

最重点目標 4 授業力の向上 ☆個別学習等の力量形成 自己評価 ◎

数値目標 関係者(委員+教員)評価「児童・生徒の実態や目標に即した分かりやすい授業を行うことができている」 $\geq 80\%$ →**肯定的評価 92%**

方 策 基礎学力向上指導を含む授業力向上プロジェクト<主管：教務部、研究育成部>

- ① 外部専門員を活用した学習指導要領への的確な対応(基礎段階の個別学習の日々の積上げ徹底の継続)
- ② 外部専門員による個別学習への継続的支援による指導改善の拡大(増額申請対応)※再掲
- ③ 外部専門員・指導教諭等を活用した指導実技型体験型授業力向上研修の実施(全教職員対象研修)
- ④ 指導説明力の向上(指導根拠を明示した授業参観ガイドの事前配布、墨東生向けに工夫した通知表)
- ⑤ 授業者支援会議でのノウハウ蓄積による改善策の共有(授業改善ハンドブック作成と若手研での活用)

⇒ 外部専門員を講師に、本校全教職員を対象とした授業力向上研修を実施した。また、校内研究会で、根拠に基づいた学習課題の整理と個別課題設定の取組を実施し、1月に校内共有を図った。PT・OT等による自立活動の指導への継続的な支援、肢体不自由教育アドバイザー等からの授業改善に向けた助言・支援等により、教職員の経験や能力に応じた指導力向上に取り組んだ。これら指導力向上と共に、指導に関する説明力向上を意図し、授業参観ガイドの作成を5～6月、10月の二期に分けて行った。3年次までの若手教員は、述べ60回の授業者支援会議により得られた知見を授業改善ハンドブックにまとめ、成果を振り返る機会とした。

最重点目標 5 専門性の発揮・向上による特色ある教育の推進 自己評価 ◎

数値目標 委員評価「ICTや各種支援機器を効果的に学習指導に活用している」 $\geq 80\%$

→**肯定的評価 90%**

方 策 専門性発揮プロジェクト <主管：主幹会、情報部、生活指導部>

- ① 文科省採択校：DXハイスクール2年次：「グローバル社会で活躍できる情報人材を育てる学習」の展開
- ② GiGA 端末等を含めたデジタルを活用した教育の一層の充実(分身ロボット、プログラミング、生成 AI 等)
- ③ 全校読書活動による読書習慣の定着及び探究学習他での授業活用拡大
- ④ 意欲ある墨東生に対する検定挑戦等への意欲喚起・試験準備等の学習支援、受験支援と補充指導
- ⑤ R7都指定事業「デジタルを活用した芸術教育」の展開

⇒ DXハイスクール(2年次)として、校内DX環境の充実、3Dプリンタ等を用いたプログラミングに関する学びの充実、スライド資料によるプレゼンテーション活動などの取組を行った。都のプレゼンカップ地区大会においては、生徒1名が第2位となるなど健闘した。病弱教育におけるロボットプログラミング選手権大会は、病院訪問・病院内分教室それぞれから参加し、分教室チームが全国大会進出、ベスト8となった。病弱教育においては、分身ロボットの活用、オンライン授業にも日常的に取り組み、効果的なデジタル活用を実践した。今年度新規指定校となった「デジタルを活用した芸術教育」では、芸術系大学教授等による体験型講座を4回実施し、取組の成果を東京都公立学校美術展覧会にて展示した。読書活動(最重点目標1に記載)、漢字検定、英語検定への積極的参加を推奨し、授業等での活用を図った。

最重点目標 6 墨東生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価 ◎

数値目標 関係者(保護者+委員)評価「安全・安心な学校づくりに向けて事故防止、防災、防犯など必要な

対応ができています」 ≥ 80% → 肯定的評価 92%

方 策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部、教務部、サポートデスク>

- ① 万一の体調急変等に備えた緊急時対応訓練の徹底及び安全確保に関する専門研修の実施
- ② 教育課程の変更に伴う学習活動の在り方の検討継続と円滑な移行（宿泊学習、防災訓練等）の継続
- ③ 相互理解に基づく墨東生の一体感醸成及び健全育成推進=全墨東生参加の共同制作や作品相互鑑賞の定着
- ④ 避難訓練時の活用による危機管理マニュアル実用性の向上、総合防災訓練等の強化と取組み発信
- ⑤ 安全の徹底及び万一の事故を教訓とした再発防止策徹底（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）
- ⑥ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会を活用した早期把握と面談を活用した積極的予防の推進

⇒ 予期せぬ事故や体調急変事例に基づく緊急時対応訓練を、学期ごとに複数回実施するとともに、訓練の状況を踏まえ危機管理マニュアルをその都度更新し、校内共有を行った。総合防災訓練では、5種類の想定訓練を実施し、実践力を高めた。重大な事故・事件の発生時には緊急の保護者会を開催し、経緯及び今後の対応について迅速に説明と共有化を図るとともに、学校の信頼回復に向けた「信頼回復プラン」を策定し、保護者への明確な説明を行った。月2回開催のいじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会では、気になる児童・生徒の情報を共有し早期対応することにより、軽微ないじめの芽を摘み、生徒の生活指導に全校協力体制で取り組むことにつなげた。

最重点目標7 感染症予防の徹底を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築

自己評価 ○

数値目標 全関係者評価「感染予防の徹底を含む、病気やけがなどへの対応を適切に行っている」 ≥ 80%

→ 肯定的評価 92%

全関係者評価「児童・生徒の摂食機能に応じた形態食の提供や摂食指導、アレルギー対策を徹底している」 ≥ 80% → 肯定的評価 75%

方 策 保健・医療的ケア・給食の充実プロジェクト <主管：保健部>

- ① 感染予防対応の徹底を含めた健康教育の推進（衛生的な環境の確保と情報発信）
- ② 医療的ケア児支援法を踏まえた専用通学車両看護師乗車率の一層向上、校外学習時の看護師付添拡大、保護者の就学時及び呼吸器及び注入に伴う校内待機の縮減を含めた学校対応の一層の充実
- ③ 初期食シリンジ注入や形態食提供による個に応じたケア及び摂食指導充実及びアレルギー事故防止徹底
- ④ 個に応じた安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイムの実現（例：リクエスト食）と試食会の実施

⇒ 感染症の予防徹底に努め、校内感染症の拡大及び集団感染による臨時休業を0件に抑えた。増加する専用通学車両乗車児童・生徒の安全確保に向け、駐車スペース確保及び付添い看護師の拡大に努めたが、引き続き安全な対応を遵守しながら保護者付添いの軽減を図っていく必要がある。給食においては、給食試食会を実施し保護者に調理の工夫及び調理施設環境について説明し理解を得た。卒業学年によるリクエスト給食、季節行事・学校行事に応じた楽しい給食提供を実施した。初期食シリンジ注入については、調理施設上の課題が残るが、引き続き手順等の工夫により対応していくことが必要である。また、アレルギー対応取組プランの作成・活用、墨東アレルギー対策マニュアルの策定に取り組み、食に関する安全性を担保した。

最重点目標8 校内外フロント「特別支援教育サポートデスク」設置による教育相談・進路指導・地域支援の充実

自己評価 △

数値目標 保護者評価「進路選択・進路指導に関する情報提供や指導の充実に努めている」 ≥ 80%

→ 肯定的評価 68%

方 策 地域支援充実プロジェクト <主管：サポートデスク>

- ① 入学相談を含む教育相談や地域支援、進路等に関する情報の一元化を基盤とした組織対応の徹底
- ② <病院内教育> 病院と連携した転籍前教育相談支援、分身ロボット活用も含めた復学支援の推進
- ③ 組織的な進路指導體制の構築に基づく確実な実施〔実習（遠隔を含む）指導、進学・就労への丁寧な対応〕
- ④ 卒後・生涯学習支援（校内販売機会の提供による就労実像の理解促進、業務習熟への支援、同窓会等支援）
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA（全国・関東ブロック・都組織を含む）活動への協力や大会派遣協力

⇒ 年2回実施の学校公開では、組織的な対応により、参加者アンケートにおいて概要説明については回答者の94%、授業参観については同じく89%から好意的な評価を得、その後の教育相談につなげることができた。病弱教育においては、病院の方針及び感染症対策に応じた相談支援を実施するとともに、分身ロボットの活用やオンライン会議による前籍校との交流や支援会議により、円滑な授業開始及び復学支援を行うことができた。

進路指導については、年度当初に本校卒業後の進路についての概要説明、1学期に高等部保護者を対象とした保護者相談会の実施、夏季休業中に進路先の施設見学会を実施したが、児童・生徒個々の状況に応じた選択肢を更に幅広く説明・提示する必要があった。地域作業所等への校内販売機会の提供を通じ、生徒の進路先として連携を強める取組、同窓会活動の支援等を通じ、生徒が卒業後の生活に見通しがもてるよう取り組んできた。これらを更に強化し、進路指導を充実させていく。

全肢P大阪大会への教員派遣、学校PTA活動と連携した墨東祭等の学校行事、課外活動の充実によりPTA活動の充実を後押しした。

最重点目標9 ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出 自己評価 ○

数値目標 関係者（委員+教員）評価「教職員のライフ・ワーク・バランスを踏まえた業務改善を遂行することができている」 ≥ 80% → 肯定的評価80%

方 策 職場環境改善プロジェクト <主管：主幹会、教務部、経営企画室>

- ① 学校環境の整美（墨東きれいプロジェクトⅢによる働きやすい環境づくり（40周年に向けた基盤整備）
- ② 業務のOA・DX推進（例：高機能プロジェクターや大型モニター等のDX配備品の効果的な活用）
- ③ 職場環境の改善（リフレッシュ資源としての出張販売等の通年導入、セルフスイーツ、自販機の継続）
- ④ 教職員のメンタルヘルスケアとライフプラン構築へのサポート（産業医面談、ミニセミナー他）
- ⑤ 夏季休業期間中に「連続休暇取得を奨励する期間」の継続「しっかり休もうリフレッシュ16days」

⇒ スクールバス用門扉の改修を進め、開閉時の職員等の負担をなくすとともに施設美化を図った。その他、施設の故障対応、補修・修繕を常時行い、環境の整美及び安全確保に努めた。教職員の職場環境整備の視点では、生成AIを活用した会議資料、教材等の作成を推進し、オンライン会議、データの共有によるペーパーレス会議を推奨し、事務作業の負担軽減を図った。また、夏季休業期間中に管理職との全員面談を実施し、メンタルヘルスや今後のキャリア構想について意思疎通を図った。夏季休業期間中に連続して16日間の休暇を取得できるよう会議日を調整するなどし、年休の取得を推奨した結果、10日以上年休取得者が86.4%と、前年度より約15%増加させることができた。分掌等の業務負担の偏りを解消し平準化する取組も進めたが、一部負担が大きい業務分担も残っており、引き続き働き方改革を強化していく必要がある。

最重点目標10 研究と修養目標：ライフ・ワークバランスを踏まえた個々の研鑽奨励 自己評価 △

数値目標 教職員の自己評価「外部専門員の助言を教育活動の充実につなげることができた」 ≥ 80% → 肯定的評価74%

方 策 日々の授業改善と自己研鑽の成果を発信プロジェクト <主管：研究育成部>

- ① 授業者支援会議の効果の徹底追究（若手：授業改善力の育成、経験者：支援力の向上）
- ② 授業者支援会議で得たノウハウ蓄積による改善策共有（授業改善ハンドブック作成・活用）
- ③ 専門家・指導教諭等を活用した指導実技体験型授業力向上研修の実施（全教員対象研修）※再掲：最重点4①
- ④ 研究大会への積極派遣や教師道場等への推薦及び成果還元レポートの共有による研鑽意識の活性化

⇒ 3年次までの若手教員の研究授業を基に、授業者支援会議を年間60回開催し、ほぼ全ての教員が授業者又は「支援者」として授業研究に関わることができた。また、対象となった20名の教員が支援会議で得た指導のポイントを記した「授業改善ハンドブック」を作成した。これは、次年度の授業改善に活用していく。研究大会では、関東・全国大会において学校を代表し2名の教員が研究発表を行った。全国大会での発表は、校内研究会で共有した。また、2名の教員による教師道場の成果報告会への参加を呼び掛けるとともに、報告資料の校内共有を行った。教職員個々の研鑽を促すに当たり、外部専門員の効果的な活用は重要である。教職員の授業力向上に資する外部専門員活用について、引き続き工夫を図る必要がある。

2 次年度以降の課題とそれに対する改善策

(1) 令和7年度学校評価を踏まえた課題と改善策

ア 進路指導の充実

学校評価アンケートでは、保護者の肯定的評価が68%、教職員が76%と、やや低い結果となった。これまで取り組んできた内容が、各学部・学年段階に十分浸透できていないこと、進路について考える機会や進路に関する情報提供が、各児童・生徒の保護者まで行き渡っていないことが考えられる。そのため、来年度は、進路指導やキャリア教育に関する保護者向けの通信を定期的に発行し、保護者が情報収集し学ぶための機会を充実させていく。また、教職員・保護者を対象とした進路に関する学習会や見学会等の機会を設け、保護者と教職員が共通理解の下、進路指導・進路支援が行えるようにしていく。

イ 教職員の働き方改革

教職員のライフ・ワーク・バランスを踏まえた業務改善について、教職員からの肯定的評価は60%と、他の設問と比較し低い数値となった。休暇取得の推奨、定時退勤日の設定、時間外在校時間の多い教職員への個別の聞き取りと相談支援などにより、1か月あたりの時間外在校時間が45時間以内を達成する教職員の増加につながったが、根本的な業務の見直しと業務分担の平準化に取り組む必要がある。そのため、来年度は、働き方改革を重点目標の一つに据え、行事の実施等校内意思決定に至るまでの手続きの簡略化、不要な業務分担の削除、分担内容の見直し・改善などにより、個々の教職員の業務量を縮減に努めていく。また、デジタルによる業務の効率化も併せて推進していく。

ウ 医療的ケアの適切な実施及び専用通学車両の安全運行

対象以外の保護者からの回答で、「分からない（該当しない）」の選択肢が多く選ばれたことにより、好意的評価が46%と低くなっているが、教職員からの評価も76%とやや低い。医療的ケアの安全かつ適切な実施には、保護者と学校看護師、養護教諭や担任等が共通理解の下で進めることが重要である。そのため、次年度は、医療的ケアに関わる教職員が日常的・定期的に打合せを行うことで、課題を共有し共に解決する体制を整えていく。個別性の高い児童・生徒のケアについては、保護者への丁寧な説明と確実な対応が必要である。事前打合せの丁寧な実施により複数で対応できるようにしていく。また、専用通学車両の必要台数は年々増加してきており、駐車スペースの確保が課題となっている。そのため、校庭・中庭を駐車場として利用できる工事を、次年度実施していく。工事期間中の指導計画の工夫や配慮により、児童・生徒への影響を最小限にしつつ、工事が円滑に進むよう全校で協力体制をとっていく。

(2)中期計画に基づく将来展望からの課題と解決策

ア 教職員の研鑽・授業力向上

肢体不自由教育、病弱教育双方の授業力を高めるための研修機会の確保については、個々の児童・生徒の実態差を考慮し、様々な分野・種類の取組を用意する必要がある。特に、障害が重度である児童・生徒の学習指導については、校内で共通した指標や指導目標をもつことが重要である。このようなことから、学校評価の結果を受けた協議委員からの提言を踏まえ、授業力向上に向けた取組を重視していくこととする。具体的には、全員1回以上授業を公開することとし、互いに学び合う機会を設けること、外部講師による研修、教職員間で学び合う研修等により、授業向上に向けた取組機会を確保していくことなどである。加えて、学習指導要領の改訂に向けた国の動向に注視し、未来の児童・生徒の学びの在り方について情報収集しながら、教育課程の変更など必要な対応に向けた準備を整えていく。

イ 開校40周年に向けた取組

本校は、令和9年度に開校40周年を迎える。これまでの墨東の教育のよさを継承しながら、社会の変化に対応した今後の墨東の教育スタイルを築いていくために、「40周年」という節目の年に記念行事を設定し、次の10年間に向けた方向性を示していけるようにする。その前年度となる次年度は、施設環境等のハード面の整備と、児童・生徒の学習成果披露の場としての掲示板の効果的な活用など「学び舎」としての教室環境づくりに努めながら、40周年の迎え方について検討する「40周年実行委員会」を正式に立ち上げ、児童・生徒の声を大事にした周年行事をつくり上げていく。

※ 各項目に関する関係者（委員、教職員、保護者）評価の詳細は、本校HPに掲載の「令和7年度学校運営連絡協議会報告及び学校評価アンケート集計結果、分析・検証結果、学校評価アンケート報告」を参照。